

科目：

| |
|--------|
| 窯芸（2次） |
|--------|

出題意図

研究科に進み、これまで行ってきた制作研究を更に望ましい方向に発展させるには、窯芸領域の表現における素材と技術的特徴を、客観的に理解している必要がある。その為、基本的な焼き物表現の素材と技術の特徴をどの様に捉えているか確認する。

解答例

私がこれまでの焼き物制作経験のうち最も興味を持つ制作技法は、「石膏型泥漿排泥 鑄込み技法」です。

この技法は、①制作物のすべての部分の厚みが均一になる点が特徴で、器としては、茶器、コップ、徳利、花器など比較的小ぶりの器の生産に向いています。また、人形や置物、オブジェなどの制作にも向いています。比較的に厚みの調節が容易で乾燥時に癖のない収縮をするので土と土との接合も容易です。加えて、抜け勾配を持つ複雑でない形状の生産に対して石膏型の割型の数が少なく済み有効です。さらに生産においては、使用型を作る型さえ作っておけばほぼ永久に、熟練の職人の力を必要とせずに需要に対応できます。

それに対し②技法が持つ困難な点は、目的の制作物が複雑な形状の場合対応が難しく、石膏型で中合（なかご）と呼ばれる取り外し可能なパーツを作ることに対応できるが限界があります。また、大きなサイズの形状のものは、重力に比較的逆らわない形でないと自重によって鑄込んだ後の脱型の際に制作物が壊れてしまうことがあります。また、石膏型を使うため、大きな制作物は型もまた大きくなり重いため生産性が悪くなると共に、石膏型の廃棄の問題は、方法によっては硫化物が発生するため注意が必要となります。

③この技法の最も重要と思われ注意を払うべき制作工程は、原型制作時に排泥鑄込み作業をする際に最も合理的な形状であることを、自分が求める形状に一致させるところにあります。なぜなら、排泥鑄込みの実践の際に起こる様々な不具合は、石膏型の形状に起因するところが最も大きいからです。有効な石膏型を作るためには、排泥鑄込みの実践の工程を十分に熟知していることが重要となります。